



《でんでんむしの生みの親》(令和5年冬季号)

中野孝之助通信

◎市政の課題を掘り起こし、解決に全力を尽くします!!

ご挨拶

新しい年を迎え、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

コロナの時代も4年目に入りますが、ようやく飲み薬も開発され始め、そろそろ収束が見えてくるのではないかと、期待をしています。

また、今年は4年に一度の統一地方選挙の年でもあり、8月～9月にかけて選挙が予定されています。住みやすい社会の構築を選択する大切な年であります。

さて、毎日テレビ等で報道されるウクライナ戦争は、長引く様相を呈し、連日のロシアによるミサイル攻撃を見ると、市民の疲弊は言語に絶するものがあります。もしその予先が我々へ向けられたなら、果たしてどのように避難をし、命をつないでいけるのか、憂慮しているところです。

日本はこれまで先人の努力のおかげで、平和に暮らしてこれてきました。しかし、平和ゆえに国を守る方策に我々は安住しすぎていた、と言わざるを得ないと思います。

コロナ後の新しい時代、混迷が想定される時代でもありますが、これを皆が安心して生活していくためにも、国防、我々の安全に力を注いでいくことが、大切であると思います。

そんな中で盛岡市は、市庁舎の建て替えと内丸地区の再整備を迅速に進めることが、喫緊の課題であると思います。新市庁舎には、諸外国並みに、市民がいざという時に非難ができる地下施設あるいはシェルターを、どのように整備していくかも大きな論点と考えます。

今後の混迷の時代を、どのように乗り越えて行くか、皆様と共に、私も市議会の場で、我々の安全確保方策と地域経済の再成、安定した社会の構築について、議論を深めてまいります。

皆様には、今年も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

令和4年6月市議会一般質問

質問項目

- ① ウクライナ戦争から見る市民の安全確保について
- ② 公共施設のトイレについて
- ③ 中津川の鮎放流について

① ウクライナ戦争から見る市民の安全確保について

Q ウクライナ戦争のような有事の際の、国民保護制度の内容はどうなっているのか。

A 国民保護法では、有事の際市は警報の通知、伝達や避難誘導、救援物資の配布や救援活動などの対応をするとなっています。

Q 実際に市内にウクライナのようなミサイル攻撃があったときの、市の対応策はどうなっているか。

A 平成29年11月に桜城小学校で、ミサイル攻撃を想定した避難、誘導訓練を行いました。

Q その訓練には、私も現地で参加した。体育館の隅、廊下の隅にしゃがみ込み、頭を防御して危険が過ぎ去るのを待つということでした。ほかに何か市ができることはあるのか。

A 市のできることは、住民の避難、避難場所や医療提供などの救援、警戒区域の設定などです。

Q 日本は専守防衛が基本です。ウクライナも専守防衛で、その結果今国土が焦土と化しています。避難シェルター整備など平時からの備えが重要だと思うが、

市は議論検討しているのか。

A 市でも盛岡市国民保護計画を定め、やるべきことを整理しています。しかし、市のできることは限られていることから、国、県の支援が必要と考えています。

Q 有事の備えを行うためには、また国防の充実を図るためには、地方から国に対して声を上げていくこと、今これが重要と考えるが市長のお考えはどうか。

A 市民の生命、身体、財産を守るのは何よりも優先すべきことであります。全国市長会を通じ、国に対しての働きかけをすでに行っております。今後も継続的に地方の声を届けてまいります。

② 公共施設のトイレについて

Q 公共施設のトイレについては、これまでも意見を述べてきたが、今の改修状況はどうなっているか。

A 市有公共施設トイレ環境整備計画に基づき、令和3年度までに1,129基を洋式化改修し、オストメイトトイレも33基設置いたしました。洋式化率67.1%となっています。

Q 東京にきれいなトイレができた。「ザ東京トイレットプロジェクト」というそうです。感想を聞きたい。

A トイレを日本が世界に誇るおもてなし文化の象徴と位置づけ、透明なトイレなど、先端技術により衛生面、防犯面で優れた機能を有していると感じています。

Q 設計者の一人、安藤忠雄氏が「トイレというあまりきれいなイメージの無い場所が美しければ、日本人の心が世界に伝わる。」と考え、事業が進められています。盛岡のまちにふさわしいトイレを、市でも設置してみてもどうか。

A 代々木にある小さな公園の透明なトイレを見てきました。親子連れが嬉しそうに写真を撮っていました。トイレは街の顔でもありますので、実現に向け研究を進めてまいりたいと思います。

③ 中津川の鮎放流について

Q 長年稚鮎の放流量の倍増を要望してきたが、令和4年度の鮎の稚魚放流状況を説明いただきたい。

A 令和3年度に比べ2倍の290kgを、岩手県釣り団体協議会の協力を得て放流します。稚魚145kg、約1万4千尾、成魚145kg、約3500尾になります。

Q 要望をくみ取っていただき感謝する。豊漁を祈って、次のステップとして、市長杯争奪鮎釣り大会を開催してみてもどうか。

A 全国的に見ても、清流の豊かさを広くアピールするため、京都市では「鴨川の天然アユ釣り大会」など事例があります。清流中津川の魅力を発信する絶好の機会でもありますことから、課題を整理し検討してまいります。

活動報告



縄文時代の土器出土看板を新設
2022.09.05



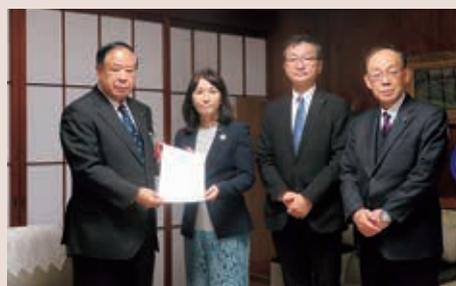
自民党岩手県連の市町村重点要望調査会
2022.09.28



信州大学の産学官連携事業を視察
2022.10.21



3年ぶりに高校生議会を開催
2022.11.11



令和5年度盛友会予算要望書を市長へ
2022.11.13



向中野小学校創立10周年
2022.11.13



県立大でお出かけミーティング開催
2022.11.25



仙北地区ごみ減量懇談会
2022.11.25

※詳しくはホームページをご覧ください。

中野孝之助事務所 盛岡市仙北2丁目11-33 (自宅)

電話 019-636-3181 Fax 019-636-0541 携帯 090-7063-6724 HP <http://nakano-kounosuke.com/>

皆様のお声をお聞かせ下さい

この広報は政務活動費により作成しています。

